



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2012 Vol.13, No.2

「日米中対話」開催さる 変容するアジア太平洋地域と日米中関係

グローバル・フォーラムは、カーネギー国際平和財団、中国社会科学院アジア太平洋学会等との共催で、2月24日東京・国際文化会館において日米中対話「変容するアジア太平洋地域と日米中関係」を開催した。日米中3カ国からの基調報告者に加え、韓国、シンガポールからも基調報告者を迎えて、変化する日米中関係の推移を分析しながら、アジア太平洋地域の将来を見通す議論を深めた。

テーマの斬新さもあって、会場には基調報告者を含め総勢88名という多数の参加者が詰めかけたが、午前、午後の2つの「セッション」で活発な議論が交わされた。2つの「セッション」において計10名の基調報告者が基調報告を行なったが、その概要は、つぎのとおりであった。また、基調報告のあとは、会場の全出席者の参加する自由討論が行われたが、とくに中国側から、大使館関係者を含む多数の出席者があり、活発な発言があったことは、注目された。

成長するアジアの経済力

セッションⅠ「成長するアジアと日米中関係」では、まず小川英治一橋大学副学長から「中国政府は人民元の変



挨拶する大河原代表世話人 (中央左)

動相場制への改革を行うと発表しているが、東アジアの近隣諸国はその実行を働きかけていくべき」との、次にジェハ・バク・アジア開発銀行研究所所長から「グローバル・インバランスは、中国、インド、ASEANが世界経済を牽引していくことが予想され、徐々に解決していくだろう」との、3番目に木村福成慶應義塾大学教授から「アジア特有のアジェンダを形成し、世界に発信することが必要。アジアで現在進行中の生産ネットワークの構築などはこの代表例」との、4番目に鐘飛騰中国社会科学院アジア太平洋研究所副主任から「オバマ政権によるアジア回帰、米国の諸同盟関係の深化は、中国国内でも大きな議論となっている」との、そして最後に丸川知雄東京大学教授から「米中は貿易摩擦が激しいと思われるが、それだけ両者の関係が深いことの裏返しである」との、基調報告がそれぞれなされた。

日米中間の平和と安定

セッションⅡ「アジア太平洋地域の平和と安定と日米中関係」では、まず村田晃嗣同志社大学教授から「安全保障枠組み作りにおいては、韓国、オーストラリアと対中包囲網を作るのではなく、如何にして中国を自分たちの輪に組み込むかが重要である」との、次にダグラス・パール・カーネギー国際平和財団研究部門首席副会長から「米中両国が必要以上に自国の軍事能力の向上を求めると、安全保障のジレンマに繋がる恐れがあり、そうならないようコントロールする必要がある」との、3番目に高原明生東京大学教授から



議論をリードする高原明生教授 (左から4人目)

「日本は、中国か米国かという二者択一ではなく、日中、日米双方の関係を発展させることで、もう一方の国との関係を発展させる好循環を作らなければならない」との、4番目にナラヤナン・ガネサン広島平和研究所教授から「ASEAN諸国は域内でパワー・バランスを求めているが、その方法は国によって異なる。インドネシア、マレーシアは独自の外交政策で行動し、シンガポールは脆弱な小国として米国の関与を求めている」との、最後に佐藤考一桜美林大学教授から「日本が東シナ海、南シナ海における海洋紛争防止のため、および日米中協力のためにできることとしては、例えば日中及び日米中海洋安全委員会の設置がある」との、基調報告がそれぞれなされた。



活発に議論する参加者たち

議論百出から

当フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上の政策掲示板「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

「日米中対話」に出席して考えたこと

早稲田大学教授 池尾 愛子

グローバル・フォーラムが米中2カ国のシンクタンクと共催した「日米中対話：変容するアジア太平洋地域と日米中関係」が、2月24日に東京で開催された。パネリストたちは「日米中3カ国のパワーバランスの推移によって、今後15～20年間のアジア太平洋地域はどのような影響を受けるか」という主催者の問題提起に沿って、分かりやすい議論を展開してくれた。自由討論も活発に行われ、フロアにいた中国人たち（大使館員を含む）からの発言もあったので、「三角対話」らしくなったといえる。同じグローバル・フォーラムが2008年1月22日に米国の戦略国際問題研究所（CSIS）と東京

で共催した「日米アジア対話：東アジア共同体と米国」と題する「三角対話」のことが想い出された。当時私はこの掲示板に「セッションIではアメリカ人の発言がなく、セッションIIでは中国人がほとんど中座した」と投稿したことを思い出す。つまり4年前には、公開の場での「三角対話」は実現しなかったのである。その後、中国人研究者もこうした「三角対話」に参加しやすくなった、という国内事情があるのかもしれないが、4年経って中国人研究者の姿勢にこれだけの変化が起こったのは、感慨深い。この変化が今後も続いてほしいと期待する。

(2012年2月26日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 2/14 「4島での共同経済活動に反対する」(丹波實) | 1/26 「オバマ大統領の一般教書演説に思う」(島M.ゆうこ) |
| 2/7 「普天間固定化は事実上確定だ」(杉浦正章) | 12/30 「国連の場から見た世界情勢」(兒玉和夫) |
| 2/6 「2012年はソフトランディング」(大井幸子) | 12/8 「『統一ロシア』敗北とチェチェンへの影響」(大富亮) |

2012年度の「対話」スタート

グローバル・フォーラムは、新年度に入って、矢継ぎ早に、

2月23-24日「日米中対話」

3月1-2日「世界との対話」

3月13-15日「日・ASEAN対話」

と、3つの「対話」を開催したが、とくに「日・ASEAN対話」は10カ国、2団体から12人の海外出席者を迎えた大規模な国際会議となり、事前の準備だけでなく、事後も日・ASEAN11カ国政府への政策提言を提出する大役が残り、事務局は大変。

フォーラム活動日誌 (12-2月)

- 12月1日、2月1日 『GFJ E-Letter』発行
- 12月7日 Sanjay PANDA インド大使館公使、Anantha KRISHNA 同参事官来訪 (伊藤憲一執行世話人他7名)
- 1月1日 『メルマガ・グローバル・フォーラム』発行
- 1月10日 第18回補佐人会
- 1月18日 第22回世話人会・第8回拡大世話人会
- 2月23日 日米中対話「変容するアジア太平洋地域と日米中関係」開幕夕食会
- 2月24日 同上「日米中対話」本会議 (Douglas PAAL カーネギー国際平和財団上席副会長他87名)

■新規メンバーの紹介 (12-2月分)

【有識者メンバー】

杉山文彦 時事通信社外信部長

世話人会・拡大世話人会開催さる

新年恒例の第22回世話人会(朝食会)が1月13日に都内のホテルで開催され、大河原良雄代表世話人、伊藤憲一執行世話人のほか、経済人世話人の豊田章一郎、茂木友三郎、国会議員世話人の浅尾慶一郎、小池百合子、末松義規、谷垣禎一、鳩山由紀夫、有識者世話人の島田晴雄、平林博、渡辺蘭と、



世話人全員が顔を揃えた。

また、同時に第8回拡大世話人会(朝食会)が並行開催され、石川洋、田中達郎、半田晴久の経済人メンバー3人も出席した。

当日は、前年度の活動報告案や収支決算報告案とともに、新年度の活動計画案や収支予算案も審議され、承認された。